

<はじめに>

特定医療法人丸山会では、平成 26 年度を計画初年度とする 3 カ年の中期事業計画を策定し、HP にも掲載しております。

中間年度(27年度)が経過したことに伴い、1 年間の振り返りを行い活動報告として併せて掲載いたしました。文中には中期事業計画で掲げた項目をローマ数字、アラビア数字で示し、実際に行った活動内容を⇒の後に記載してありますので、ご高覧いただければ幸いです。

なお、初年度(26年度)の活動報告につきましては既にHPに掲載済みです。併せてご高覧ください。

中期事業計画に基づく27年度活動報告

I 患者さん・利用者さんの権利の尊重と患者さん・利用者さん中心の医療・介護の推進

1. 患者さん・利用者さんの権利および丸山会の理念・方針等のHP、広報誌、病院案内等への掲載機会の増加
⇒新規制定の上掲載：「病院概要」「職員ハンドブック」「ネームプレート差込」に掲載しました。
⇒改刷の上掲載：「外来診療案内」「入院案内」に掲載しました。
⇒その他「Marukko(院外広報誌)」「まるっこ回覧板(院内広報誌)」「看護師募集チラシ」等へ掲載しました。
*上記は26年度に掲載し、27年度以降継続しております。
2. 職員に対する患者さん・利用者さんの権利および丸山会の理念・方針、倫理規定の周知徹底
⇒新入職員研修、職員研修・集会等で反復し周知徹底しております。
⇒「丸山会ポータルサイト(法人内グループウェア)」トップに掲載しております。
⇒「職員ハンドブック」に掲載し、全職員による読み合わせを実施しました。
⇒病院内職員向け「デジタルサイネージ」にて放映しております。
3. インフォームド・コンセントの徹底と個人情報、プライバシーの保護
⇒インフォームド・コンセントに関わる病院内ルールを整備し、業務を進めてきました。ケアプロセスに関わる内部監査において実施内容等の検証を行っております。
⇒26年度全面的に見直しした個人情報保護管理体制に基づき、職員研修等も交えながら、管理レベルの維持・向上を図っています。
⇒「職員ハンドブック」に骨子を掲載し、新入職員主体に研修を実施しました。
⇒当面示されているマイナンバー制度について理解を深め、職員向けの手続きを進めました。
4. 患者さん・利用者さんのご意見聴取および医療・介護サービスの質向上への反映
⇒統括部署を「患者サービス向上委員会」に一元化し取り組んでいます。
⇒意見箱投入意見の公表方法をルール化し、公表を継続しています。
⇒患者さん・利用者さん満足度調査を昨年度に続き実施し、比較分析を行うとともにご意見に基づく改善策等を検討・実施しています。

Ⅱ 安全・安心で質の高い地域医療・介護の提供

1. ありたい姿と現状のギャップ、病院機能評価審査結果等を踏まえた部署別目標および改善具体策の策定と実践
 - ⇒病院機能外部評価準備委員会をQM(内部監査)委員会に改組し、監査プロセスを通じ各面から改善活動を実践しました。(注) QM(Quality Management)
 - ⇒具体的には、同委員会メンバー主体に、上期10、下期6の内部監査チームを編成し、病院機能評価受審時に課題と認識した事象等を主体に、その改善状況等を監査しながら病院の質の向上を図りました。
 - ⇒法人の理念・基本方針を事業計画(中期及び年度)で展開し、事業計画等に基づき各部署目標を策定することにより、目標の連鎖を図っています。
 - ⇒併せて、28年度末をマイルストーンとして、部署毎に目標に基づき具体的な施策、実施スケジュールを策定し、四半期毎に進捗管理を行うことにより、P-D-C-Aが機能するよう取り組んできました。

2. 医療・介護安全管理体制の一層のレベルアップおよび定着
 - ⇒専任医療安全管理者を配置してインシデント事案等への対応、一元管理を行うとともに、法定を含めた研修会等は完全実施、併せて強化月間、標語募集等により、安全管理に対する職員の意識高揚を図りました。

3. 病院内・施設内感染制御体制の一層のレベルアップおよび定着
 - ⇒感染管理認定看護師、感染対策委員会が中心となり、関連事案等への対応、一元管理を行うとともに、法定を含めた研修会等は完全実施、併せて県外老健施設も含め法人全施設にラウンド指導等を実施しました。

4. 医療機器等の適切な保全
 - ⇒臨床工学科、施設管理課主体に主要な医療機器の現況、メンテナンス手法、更新スケジュール等について一元管理の上、計画的に進めています。

5. 外来診療業務のパフォーマンス向上
 - ⇒小児科外来枠を2枠/週から3枠/週に増枠しました。(27年4月より)
 - ⇒乳腺外科外来を開始しました。(28年3月より2枠/月)
 - ⇒救急搬送の受入件数は955件(対前年9.3%増)と堅調に推移しました。救急科・総合診療科の人的な体制拡充が課題です。
 - ⇒外来患者さんの円滑な診察フローの障害となっていた外来受付ブースの廃止を検討し、28年4月より実施しました。今後同ブースの有効活用を検討・実施していきます。

⇒内科医師(内視鏡専門医)を1名増員、内視鏡ビデオシステムを1台増設、4診体制とし、人間ドックの増加等に伴う検査受入体制を整備しました。

⇒外来診療に関わる市民公開講座を次の4回(5講演)開催しました。

5月：ノルディックウォーキングでもっと健康に！

演者：こさとクリニック 月本光一先生

10月：肺がんを知ろう～もっとも増えているがんの話

演者：北里大学 佐藤之俊教授

11月：進化する脳神経外科医療

演者：金沢大学 中田光俊教授

12月：子育てに役立つ豆知識

演者：信州大学 小池健一教授

「ことば」を育てるために大人ができること

演者：丸子中央病院 赤井節子言語聴覚士

6. 看護・介護部門の機能強化

⇒クリニカルラダー、介護士育成プログラム等に沿い、知識、スキル、接遇力等について、若年職員主体に計画的な育成を進めています。

⇒介護予防・日常生活支援総合事業(上田市委託)の運営等にも携わり、職員のノウハウが向上しました。

⇒在宅介護サービス強化の一環として、病院、御所苑、ケアまるこが一体となった訪問リハビリテーション業務の拡充を図ってきました。件数は6,195件(対前年52.0%増)と大幅増加しました。

ケア東久留米においても28年2月より同業務を開始し、件数・金額とも順調に増加しております。

⇒デイサービスの導入も検討しましたが、当面グループである(福)大樹会の同サービスを連携強化により最大限活用することとし、見送りとしました。

7. 診療技術部門の適切な機能発揮

⇒薬局事務2名をプロパー化し、事務力の向上とコスト削減を図りました。

⇒リハビリテーション科を医療、介護の2科に分科して各々の専門性の発揮と、法人内業務の連携強化を図りました。

⇒医療リハビリテーション科は、地域包括ケア病棟の開設準備に際し、リハビリ提供体制の再構築を行いました。

⇒介護リハビリテーション科は、病院、御所苑、ケアまるこの介護系リハビリテーション業務を一元管理し、職員の意欲的な配置転換、効率的な活用を図りました。併せて、訪問リハビリテーション業務の拡充、市の委託事業への参画等を行ってきました。

⇒臨床検査科は、今後の検体検査業務の増加等を見通し、一部外注化等業務の効率化、合理化を検討しています。

8. 人間ドック、集団検診等の受入体制の強化

⇒人間ドック・検診施設機能評価を受審し、継続認定を受けました。受審プロセスを通じ、課題・問題点を把握した上で、改善活動を実践しています。

⇒検診システム、電子カルテのシステム連携を実施し、増加基調にある人間ドック、検診業務に対応するとともに、事務の合理化を図りました。

⇒部屋無しドックの拡充を図った結果、人間ドックは3,710件(対前年9.3%増)、脳ドックは55件(同150.0%増)となりました。

9. DPC 対象病院への移行準備

⇒準備病院移行に向けて準備を進め、28年4月1日付で移行しました。

10. 地域包括ケアへの取組強化

⇒27年7月より、医療・介護相談窓口のワンストップ化を図っていくことを目的として、在宅支援センターと地域医療連携室を合併し、地域・グループ連携室を設置しました。

⇒地域・グループ連携室には医療相談係、連携事務部門、そよかぜ訪問看護センター、居宅介護支援事業所を置き、構成メンバーは、ケアマネージャー、ケースワーカー、訪問看護師、連携事務係とし、患者さん・利用者さん目線で、医療・介護相談が一元的にできるよう精度の向上を図っていきます。

Ⅲ 医療・介護従事者の育成とチーム医療・介護の推進

1. 各センター機能の強化

(1) 研修センター

⇒地域に心肺蘇生手法の講習を拡充し、心肺停止時の地域の救命率を向上させること等を主目的に一層活動の範囲を拡げ、次のとおり講習会を実施しました。

コース	実施回数	受講者数	主な受講者
AHA・ACLS	2回	23名	医師、コメディカル(含看護師)等
リプレコース	1回	9名	〃
AHA・BLS	19回	180名	本法人職員(含事務)、地域の医療従事者
PUSH	4回	92名	警察職員、宿泊施設職員、近隣住民等

⇒上表PUSHコースは、心肺蘇生時に人工呼吸を要しない(胸骨圧迫のみ)子供にもできる簡易で実施しやすい有用な手法であり、世界最高権威の心臓学会AHAも認めています。

丸山会では、27年9月より正式に導入、甲信越地区初の地域コア施設(指導者育成施設として認められた施設)を目指し、一層の拡充と地方展開の範たるモデルを築くことで、地域のしあわせ創りに貢献していきます。

⇒シミュレーション教育にもさらに精度をあげ取り組みました。

27年度のテーマを「デブリーフィング技術」(前年度は「シナリオ作り」とし、同教育におけるデブリーフィング手法の有用性に着目し研修を重ねました。6月には「一般病院におけるシミュレーション・センター設営の試み」の演題で学会発表を行い、11月にはデブリーフィングの第一人者である講師陣を招聘、病院主催でシンポジウムを開催し、県内各地から大勢の医療関係者が病院に集いました。

⇒27年度より信州大学医学部の臨床実習先病院の指定を受け、医学部学生5名の臨床実習を受け入れました。

(2) 消化器病センター

⇒内科医師(内視鏡専門医)を1名増員、内視鏡ビデオシステムを1台増設、4診体制とし、人間ドックの増加等に伴う検査受入体制を整備しました。

⇒27年度の主な内視鏡検査・診療件数は8,220件(対前年18.3%増)と好調に増加しました。

(3) 糖尿病センター

⇒やまぶき会(糖尿病患者さんの会)と強調しながら様々な啓蒙活動等を行いました。

⇒世界糖尿病デーのブルーライトアップ点灯式に併せ、玄関ロビーにて糖尿病に関わる学習会を開催しました。

(4) 透析センター(含上田透析クリニック)

⇒地域医療器機関との連携強化等が奏功し、透析実施件数は、病院透析センター11,029件(対前年10.9%増)、上田透析クリニック15,185件(同11.2%増)と好調に推移しました。

⇒病院透析センターと上田透析クリニックでは毎月1回交流会を開催し、診療における連携、情報交換等を図っています。

(5) 在宅支援センター

⇒医療・介護一体となった相談及びサービス提供を図っていくため、7月に地域遺漏連携室と合併し、地域・グループ連携室に改組しました。

IV 健全な病院経営(安定した経営基盤の構築)

<組織・体制面、人事面>

1. 現状の課題・問題点を踏まえ、今後のあるべき姿実現に向けた患者・利用者受入制、組織体制の見直し

(1) 病院診療部門

⇒乳腺外科外来を新設しました。(2 枠/月)

⇒小児科外来枠を週 1 枠(土曜日午前)増設し、3 枠/週としました。

⇒外来患者さんの円滑な診察フローの障害となっていた外来受付ブースの廃止を検討し、28年4月より実施しました。今後同ブースの有効活用を検討・実施していきます。

⇒従来的一般病棟 3 棟 150 床(一般病棟 7 : 1 入院基本料)の内 1 棟 50 床を地域包括ケア病棟(回復期病棟)に再編成すべく、期初より検討を進め、28年1月より施設基準上必要な実地での準備を開始、28年4月に新設しました。この再編成により、急性期(一般病棟 2 棟 100 床)・回復期(上記 1 棟 50 床)・慢性期(医療療養 1 棟 50 床、介護療養型医療施設 2 棟 97 床)の編成になり、上小医療圏で最大のケアミックス病院になりました。

(2) 診療技術(リハビリテーション)部門

⇒27年4月より「リハビリテーション科を「医療リハビリテーション科」と「介護リハビリテーション科」に分科し、各々の専門性を高めるとともに、相互に職員の配置転換を行いながら人材育成を行っていく体制としました。

⇒医療リハビリテーション科は、地域包括ケア病棟の開設準備に際し、リハビリ提供体制の再構築を行いました。

⇒介護リハビリテーション科は、病院、御所苑、ケアまるこの介護系リハビリテーション業務を一元管理して、職員の意欲的な配置転換、効率的な活用を図りました。

併せて、訪問リハビリテーション業務の拡充、市の委託事業への参画等を行ってきました。

(3) その他

⇒職場長会議の開催方法を抜本的に見直ししました。従来は伝達主体に上田地区で毎月開催していましたが、県外 3 老健施設も含めた法人全体での開催(3カ月に 1 回)とし、新たに分科会によるディスカッションの場を設けました。

2. 定年制度、再雇用制度等の再構築

⇒65歳までの雇用を確保している現行就業規則を尊重し、さらに以降についても法人と本人の合意があれば雇用を継続することができる制度としました。

3. 研修・教育制度の拡充(資格取得支援制度の新設)

⇒当法人が、質の高い医療・介護の提供を目指していく上で、在籍が必要な専門資格保有者、及び各職員の知識・スキル等の向上が、丸山会の質の向上に繋がる専門資格等の取得について、次のとおり支援制度を構築しました。

(1) 法人が事業運営上、資格取得者の在籍が必要と認めた専門資格

資格名	支援額	離職時の勤怠	旅費	必要な人数	取得後の勤務継続
感染管理認定看護師	全額	勤務(出張扱)	支給	2名	5年以上
皮膚・排泄ケア認定看護師	全額	勤務(出張扱)	支給	2名	5年以上
認知症看護認定看護師	全額	勤務(出張扱)	支給	2名	5年以上
透析看護認定看護師	全額	勤務(出張扱)	支給	2名	5年以上
訪問看護認定看護師	全額	勤務(出張扱)	支給	1名	5年以上
診療情報管理士	全額	勤務(出張扱)	支給	10名以上	5年以上

⇒上記の専門資格等の取得については人材公募としています。28年度の人材公募は次のとおりです。

資格名	人数	備考
皮膚・排泄ケア認定看護師	1名	・看護師免許取得後5年以上の実務研修と3年以上の認定分野における実務研修の実績が必用。
認知症看護認定看護師	1名	
訪問看護認定看護師	1名	
診療情報管理士	5名	・取得後は関連分野での勤務とする。

(2) 各職員の知識・スキル等の向上が、丸山会の質の向上に繋がる専門資格等

⇒上記以外の認定看護師、正(准)看護師、介護福祉士、専門薬剤師、認定技師・理学療法士、防災関連、DA等各職員の知識・スキル等の向上が、丸山会の質の向上に繋がる専門資格、講習受講等が、多職種に亘り数多く存在します。費用支援の水準、勤怠の扱い、旅費の支給等の観点から一部または全部の支援を行います。

<資産、機器、物品管理>

1. 資産、機器、物品管理の徹底

⇒従来より課題であった備品台帳が完成しました。中古未使用備品の在庫が明確になり、二重購入等のリスクが軽減しました。

2. 物品購入、業務委託等の再検証

⇒業務委託先全社(6社)と契約内容等について再検証し、委託費用の削減を図りました。

⇒病院内物品請求を、紙ベースから丸山会ポータルサイト(法人内グループウェア)にシステムを構築し、業務の効率化と物品の使用管理が容易になりました。

3. 医事・介護報酬請求業務の精度向上

⇒査定件数は、外来616件(対前年比△111件)、入院592件(同+157件)、
返戻件数は、外来333件(対前年比△144件)、入院348件(同△29件)とな
り、特殊要因のあった入院の査定を除いて改善しました。

<情報管理、活用、システム整備、法人情報の発信>

⇒検診システムと電子カルテシステムの連携を行いました。連携によりデータの再入
力作業が大幅に軽減されました。

⇒法人内全介護系のシステムを統合し、上田圏の利用者IDを共有化しました。

⇒訪問看護、訪問リハビリ、通所リハビリの介護記録を電子化しました。

⇒社会福祉法人大樹会ベルポートまるこ様、株式会社ミヤマ様と3者間で介護請求シス
テムの連携を行いました。この連携により、3者間での請求関連事務の負担が軽減さ
れました。

⇒病院内物品請求システムを構築しました。

⇒丸山会ポータルサイト活用範囲を拡げ、各種報告の集計、職員アンケート調査等の
集計作業が大幅に軽減されました。

⇒HP刷新に伴い各業者のプレゼンを受け、入札により決定しました。

V 地域おこしへの貢献

1. 市民公開講座、出前講座、心肺蘇生の研修会等の開催

⇒外来診療関連の市民公開講座を4回(5講演)、心肺蘇生関連の講習会(4種)を26回、出前講座を4回開催しました。

2. 地域行事等への積極的な参画

⇒病院をメイン会場とした第2回「まるこベルシティまつり」を開催しました。

種々な出し物、打上花火等が好評で、第1回を約2千人上回る約5千人の来場者があり、大盛況となりました。

*「まるこベルシティまつり」

「丸子中央病院祭」と伝統のある「光明観音堂りんごまつり」のコラボレーションを主体に、旧カネボウ跡地利用者と地元自治体等が一体となった夏祭り

3. 病院施設の地域の憩いの場としての活用促進

⇒9月より9Fレストランを一般の皆様へ開放しました。

⇒白石佐和子さん、澤崎一了さんのロビーコンサートを開催し、玄関ロビーは立錐の余地がない程大盛況となりました。

⇒クリスマスイベントとして子供クリスマスツリープロジェクト(ワークショップ)を開催しました。

以上